

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 22日から23日は、千島の東に低気圧が進む一方、大陸から高気圧が日本付近に張り出し、西高東低の冬型の気圧配置となる。
- 24日から26日にかけて、高気圧が日本海から東日本付近を通過して日本の東へ移動する。
- 25日から26日にかけて、低気圧が黄海から日本海北部付近に進み、日本付近は気圧の谷となる。

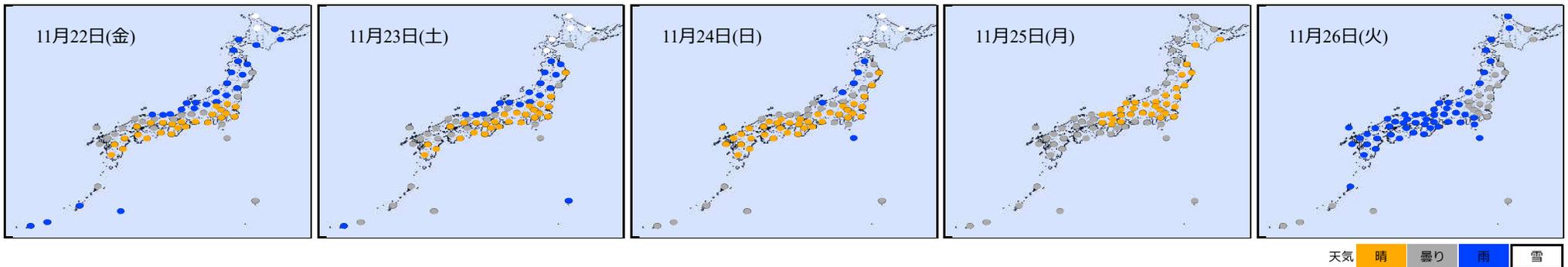
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 22日から23日頃は、冬型の気圧配置が強まり、北日本では荒れた天気となるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

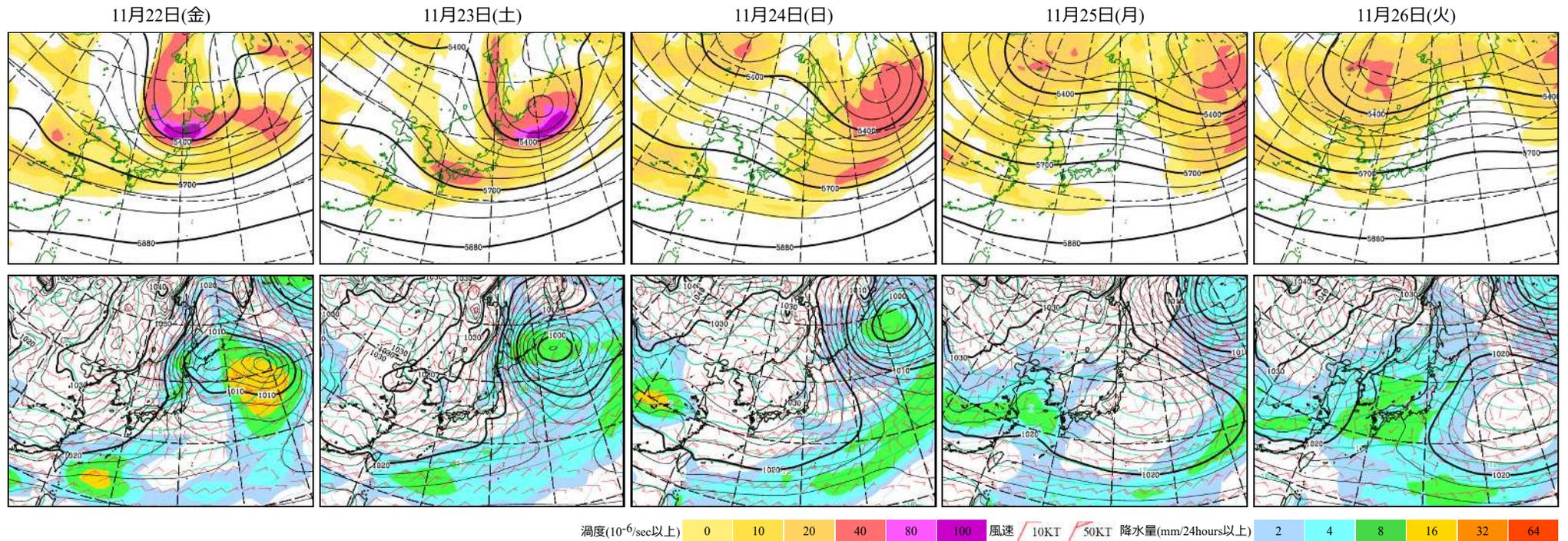
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

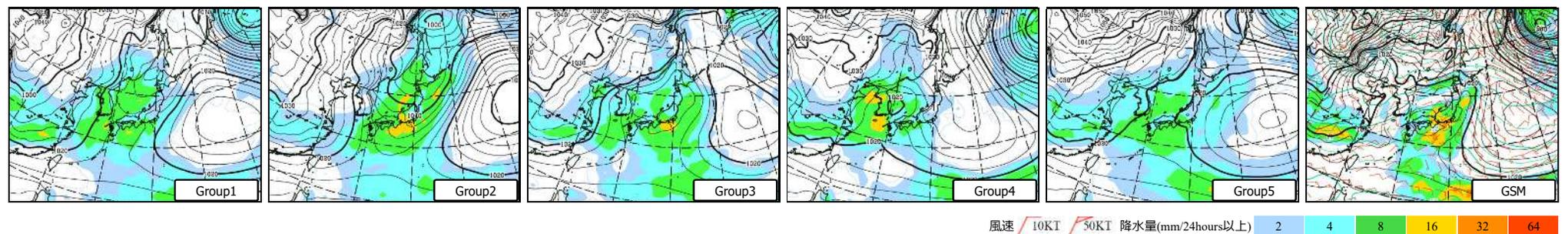


- 北日本日本海側と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の日が多いが、25日は晴れる所がある。
- 北日本太平洋は、曇りや晴れの日が多いが、22日から23日は雨または雪の降る所がある。
- 東日本太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが、24日と26日は雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、22日から23日は雨の降る所があり、26日は全般に雨が降る。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、日変わりは比較的小さい。
- GSMとECMは、22日は北海道付近の気圧が高くなり、北海道付近では気圧の谷の影響が弱くなった。
- ガイドランスの初期値変わりは比較的小さい。
- スプレッドは、期間の終わりで大きく特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。